

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1955
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.48, No.8 (1955. 8)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19550801--001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19550801--001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 三田學會雜誌

慶應義塾經濟學會

八月號

經濟學關係文獻目錄

書評及び紹介

理論經濟學の性格と日本經濟……………	鈴木諒一 (一)
投入産出分析(一)……………	福岡正夫 (三)
——動學的レオンティエフ體系——	
厚生經濟學と倫理的價值判斷……………	富田重夫 (三)
ベヴァン主義とイギリス労働黨……………	飯田鼎 (三)
——労働黨左派の發展過程とその意義——	

第四十八卷 第八號

昭和二十五年八月十一日發行  
昭和二十六年二月十三日發行  
昭和二十六年七月十三日發行  
昭和二十六年十月二十四日發行  
昭和二十七年一月九日發行  
昭和二十七年二月九日發行  
昭和二十七年三月九日發行  
昭和二十七年四月九日發行  
昭和二十七年五月九日發行  
昭和二十七年六月九日發行  
昭和二十七年七月九日發行  
昭和二十七年八月九日發行  
昭和二十七年九月九日發行  
昭和二十七年十月九日發行  
昭和二十七年十一月九日發行  
昭和二十七年十二月九日發行

昭和二十五年十月二十四日發行  
昭和二十六年一月九日發行  
昭和二十六年二月九日發行  
昭和二十六年三月九日發行  
昭和二十六年四月九日發行  
昭和二十六年五月九日發行  
昭和二十六年六月九日發行  
昭和二十六年七月九日發行  
昭和二十六年八月九日發行  
昭和二十六年九月九日發行  
昭和二十六年十月九日發行  
昭和二十六年十一月九日發行  
昭和二十六年十二月九日發行

三田學會雜誌 昭和三十年七月號

定價 金七〇圓

(送附)

# MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 48, No. 7

July, 1955

## CONTENTS

	Page
The Reformation of Japanese Agriculture since Land Reform .....	M. Koike ( 1 )
——On the Transfer of Farm Land——	
Input-Output Analysis (2) .....	M. Fukuoka ( 34 )
——Computation and Stability——	
Reviews and Notes	

Published for  
**KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI**  
(The Keio Economic Society)  
Editorial communications to be sent to  
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,  
Keio-Gijuku University,  
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.  
Price 70 yen net

書評及び紹介

W・L・スミス著『爲替相場の調整と生活水準』……………	白石 孝(五)
印南博吉著『生命保険論』……………	庭田 範秋(五)
D・デュラン著『多元回帰係数に對する同時信頼領域』……………	佐藤 保(五)
バーゲス・カメロン著『生産の決定』……………	尾崎 巖(五)
L・M・コイーク著『ラグの分布と投資行爲』……………	鈴木 諒一(六)
E・V・ホフステン著『品質變化と物價指數』……………	鈴木 諒一(六)

理論經濟學の性格と日本經濟

鈴木 諒 一

經濟學はそれ自體實踐的性格を有すべきものである。實證科學の性質は常に政策の基盤としての「理論」を興すべき任務があり、いかに論理的に considered であり、内容が美しく見えるものであつても具體的政策の手段となり得ないものは、優れた經濟學と呼ぶことは不適當であり、單に價格とか生産量とかの經濟的用語を使用した應用論理學に過ぎない。例えばケインズ理論とロンドン・スクールの人々の理論を比較して見よう。ケインズの「一般理論」は必ずしも理論的に美しい體系を有しているとは云い難い點があり、各部分を取り上げて見ると自家撞着ではないかと疑われる處のあることさえある。これに對してヒックスの「價値と資本」は遙かに論理的であり終始一貫した體系を有している。しかしケインズ理論が雇用の増大と云う大目的を有しているのに比し、ヒックスにはかかる積極的實踐意圖が見出されないため、一部の學者の間の遊戯的手段とはなり得ても具體的政策手段としての役割は全く失われて

理論經濟學の性格と日本經濟

いる。ここにも「良い經濟學」と「悪い經濟學」の對照が見出される。

ケインズ理論が均衡論的方法に優る一つの理由は經濟諸量間の因果關係の追求を明らかにしていることである。均衡關係の分析は單に經濟諸量の同時決定を論ずるに止まり、何れかの要因にショックを興えたときその反作用を記述せんとするに止まる。しかも均衡理論はその性質上、人口、生産技術、欲望等の與件を一定にした靜態均衡の理論に基礎をおいている。近時「動態均衡」なる言葉が流行したが、この概念は單に豫想要素の導入やタイム・ラグの考え方をとり入れただけのことで、これ等與件の變動に適應し變動しつつある均衡概念を建設したことにはならない。例えば蜘蛛の巣の理論にしても需要曲線や供給曲線の位置と形状とを固定しておいて、均衡點に收斂するか發散するかの問題だけを取扱つてゐる。動態においてはむしろこれ等曲線のソフトが問題であるにも拘らずこの點を等閑視して單に發散か收斂かの問題を取扱うのは、時の概念をとり入れた靜態理論に過ぎない。この「時」はあくまで與件の變動を伴わな